革新的形質を備えた
スイートピー品種群育成と産地振興

中村　薫　氏
宮崎大学農学部　特別教授
（元 宮崎県総合農業試験場 薬草・地域作物センター 所長）



1　業績の概要

背景

宮崎県では1983年に切り花スイートピーの生産が始まり、産地が拡大した。しかし、その後、利用していた輸入種子に開花期の異なる種子が混在するなど、生産の不安定化が問題となった。生産者による優良系統の選抜が進められる一方、県においてもオリジナル品種の育成が求められた。また、労働集約型の品目であるため作業の省力化が課題となっていたほか、連続した曇天で発生する落蕾による収量減少への対応も求められていた。

研究内容・成果

「開花時期の揃い」を基本とし、需要拡大に向けた「花色」「日持ち性」、生産性向上に向けた「省力性」「難落蕾性（蕾が落ちにくい形質）」の４形質を育種目標に設定した。遺伝資源の特性把握と交配・選抜を通じ、希少な複色花色の“式部三姉妹”、輸送性に優れる“高日持ち性シリーズ”、巻きひげ摘除作業が不要な“ムジカシリーズ”、落蕾を軽減する難落蕾性品種など、これらの特色ある形質を備えた計25品種の育成を主導した。

これらの品種の普及により、花色や日持ち性による商品価値の向上と、省力性や難落蕾性による生産者の経営安定が図られ、国内第１位のスイートピー産地（宮崎県）の発展に貢献した。

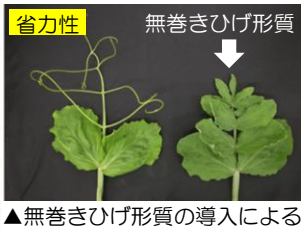




▲複色花色が三品種揃った“式部三姉妹”
和風のポスターを作成しPR（右）



▲連続した曇天時に
従来品種に発生する
落蕾(矢印)



▲無巻きひげ形質の導入による
巻きひげ摘除作業の省力化



▲日持ちのする育種親の選抜



▲育種目標とした形質と、それに対応して育成した品種

普及状況

育成品種は国内外の品種コンテストで多数の賞を受賞し、ドイツの国際園芸見本市IPM ESSENでは切り花部門第１位（2009年）を獲得した。スイートピーの産出額が全国第１位の宮崎県において、県育成品種は県内の栽培面積の約28%（2023年）を占め、産地を支える基幹品種として定着している。その普及は、生産の安定化に加え、日本産切り花のブランド向上と輸出振興に貢献した。また、品種の命名や“式部三姉妹”のPR、「スイートピーの日」（１月21日）の制定への関与を通じ、需要拡大にも寄与した。

2　評価のポイント

スイートピーの品種育成、栽培技術の開発および普及を一体的に推進し、育成品種の普及を通じて、スイートピー産地の発展に貢献するとともに、国内市場への供給のみならず海外輸出も担う責任産地としての役割を支えてきた。さらに、デルフィニウムのF1品種育成技術やラナンキュラスの増殖技術の開発などにも成果を上げ、これらの成果を国内各産地の花き振興へと波及させた点が高く評価される。

【連絡先】宮崎大学農学部　次世代農学教育研究センター
（住所：〒889-2192　宮崎県宮崎市学園木花台西1丁目1番地　TEL：0985-58-7789）